

創立百年を機に「専心研学」を校訓とすること

R2.1.22

校訓制定の理由（機運）

本年度第1回開かれた学校づくり委員会において、生徒による学校評価のなかで「学校の教育目標を知っている」の肯定的回答が低いことが話題にあがり、何人かの委員から、多くの学校で制定されている校訓のように、簡潔な教育目標が示されてよいのではないかと意見が出されました。

また創立百周年記念事業実行委員会においても、スクールカラーと学校教育目標（校訓）に関する話題となり、全体としてこの機会にスクールカラー、校訓の制定を検討することも良いのではないかという流れになりました。これを受けてスクールカラー決定の動きが具体化し、過日の決定に至ったわけです。一方の校訓については、同窓会報において子安同窓会長が、2回にわたり制定を要望する旨の挨拶を掲載しているところです。

以上の経緯を踏まえれば、創立百周年の機会に「校訓」を定めることは時宜を得たものと考えます。そこで、教育目標にも記された「専心研学」を校訓として、今後様々な場面、学校活動において周知を図り、校訓に則った生徒の育成に努めていきたいと思います。

なお校訓は校風に相応しい目標・理想を簡潔に掲げるべきものであって、生徒の意向を問う性質のものではありません。

「専心研学」の由緒

現行の教育目標（昭和58年制定）の一項に「自他敬愛の精神に立って互いに切磋琢磨し、専心研学の校風を樹立する」とあります。遡ってみると、昭和28年制定の教育方針にも「専心研学の風を作興する」とあり、その後他の文言が変遷を遂げる中であっても、「専心研学」の4文字は不変のまま、現在の目標まで継承されています。

”集中して学問を研く” ”全力で研究・学問に徹する”意を示すこの言葉は、本校の校風に鑑み、生徒の実態にも即しても校訓に相応しいと考えます。また、創立七十周年に際して「専心研学」の碑が建立された経緯もありますし、インターネット等で調べる限り本校の外に使用している団体は見当たらないなど、十分に独創性のある言葉です。

以上のことから、創立百周年を機に「専心研学」を校訓と定め、本校教育活動の振興に積極的に取り入れていくこととします。

（令和元年度 安藤久彦校長）